

# 木崎中だより

4号

令和2年7月1日(水)  
さいたま市立木崎中学校  
048(886)4302

## 衛 生——「<sup>せい</sup>生」命を「<sup>まも</sup>衛」る

校 長 大 谷 慎 也

「うれしさや 七夕竹の中を行く」(正岡子規 『子規全集』) 梅雨のさ中、七夕飾りにうっとりしさをしばし忘れる頃となりました。毎年大東小学校では、育成会の方々が児童の健全育成を願う事業として大きな七夕飾りを正門付近に設けていらっしゃいます。これまでは、児童が短冊に願い事や夢を書き、それぞれ下げていました。今年は、新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理に配慮し、育成会の方々が、会長様の敷地から切り出した竹に、児童から預かった短冊を一つずつ下げることになったそうです。例え、児童が自分で飾った短冊でなかったとしても、願いや夢を語り合ったり、楽し気に眺めたりする光景は、大人も心が和むことと思います。

現在学校では、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力を賜り、厚生労働省および文部科学省並びにさいたま市教育委員会で示された新しい生活様式を踏まえた教育活動を順次進めています。授業を始め、給食や清掃、生徒会活動や部活動については、衛生管理を常に意識した条件や制限がまだまだ加わった活動となりますが、生徒同士、生徒と職員の関係も書字や会話による交流の機会が増え、活気が見られるようになってきました。

さて、「衛生」という言葉を国語辞典で引きますと、「健康の維持と向上を図るとともに、疾病の予防と治療に努めること。」「身の回りを清潔にすることで健康を保ち、病気にかからなくすること。」と記載されています。語源は漢籍のようですが、明治時代に漢方医である長与専齋が英語の **hygiene** を訳し、関連して 1875 年に当時の内務省医務局が改名して、衛生局が新たに設置されたことから、使用が一般化したとされています。さらに、医師であり、旧東京市長を務めた後藤新平の活躍により、世に定着していったと言われています。後藤新平は、日清戦争後の 24 万人もの帰還兵の検疫事業を担い、三ヶ所の検疫所を即席で設置に当たりました。そして、蒸気消毒缶を製作し、感染者の動線を確保して、検疫に従事する人々の待遇を改善しながら 2 ヶ月余りで検疫を終えました。この功績は、世界中で絶賛され、1898 年には当時の台湾に渡り、上下水道整備等の近代化に尽力しました。後藤新平の言う「衛生」は、文字どおり『生命を『衛』るには、何をなすべきか。』ということです。公共や自治を重んじて、「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」という「自治三訣」を説き続けることで、公衆衛生の普及に全身全霊を捧げました。私達が励行している手洗いやマスクの着用、不要不急の外出の自粛等は、「自治三訣」に学ぶ公衆衛生の一つではないでしょうか。

本年度の 1 学期終業式が今月 31 日(金)となり、2 学期始業式は 8 月 17 日(月)となりました。生徒同様に職員も長い 2 学期への準備期間でもある夏休みが短縮され、心身の休まる時間が十分であるとは言えません。しかしながら、新型コロナウイルス感染症で学んだ公衆衛生を凡事徹底し、どんな苦境にあっても夢や希望を語り、時を大切にしていくことが新たな幸せを皆で感じられるための一歩であると考えます。保護者・ご家族の皆様、地域の皆様のご健康を心からお祈りするとともに、引き続き教育活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。